「府中が出てくる府中本！」応募一覧

※「府中」が出てこない本も含め、応募していただいた本をすべて掲載しています。

No.	本の題名	著者	出版社	コメント
1	アントくんとね…	あべ たか子／文	文芸社	保育園の子供たちが府中四谷文化センターへお散歩に行き、蟻のアントくんを助けるお話し。
2	いつも駅からだった　府中編	岩井 圭也／著	京王電鉄	府中市を舞台にした、姉妹の絆を描いた短編ストーリーで、作中の謎解きを楽しみながら一気に読めました。実在するお店や施設が登場しており、読み終わったら街歩きがしたくなります。
				京王電鉄が体験コンテンツとして、期間限定で配布していた冊子です。見逃した方におすすめします。啓文堂書店や府中市美術館などが短編小説の舞台となっています。
3	いのちの車窓から	星野 源／著	KADOKAWA	多摩川サンセットという章に、白糸台駅や多摩川競艇場が登場する。
4	「馬」が動かした日本史	蒲池 明弘／著	文藝春秋	P144-146　馬と歴史が好きな人は一読してみて下さい。
5	江戸っ子の読書事情	内藤 久男／訳	ミヤオビパブリッシング	令和に読む、江戸のベストセラー。 江戸後期の識字率は世界一だったと言われている。では庶民はいったいどんな本を読んでいたのか。 教訓本や滑稽本から料理本にかわら版まで、わかりやすい現代語訳で二百年後の本好きにお届け。好奇心旺盛な江戸の本読みが何を好み、何を受容していたのかを見ていく。
6	ゑにし繋ぐ道　多摩川ハケ下起返物語	内藤 久男／著	幻冬舎メディアコンサルティング	正に多摩川や中河原をテーマにした小説になっています。 府中市70周年にふさわしい本だと思います。感動しました。
				中河原の物語でした。 農家の方々の苦労が目に見えるようでした。感動しました。
				現在の東京・府中市の一角。 そこはかつてハケ下と呼ばれ、多摩川が氾濫するたび大変な被害に見舞われておりました。 ハケ下大野郷の貧農に生まれた伊助と、浅間山の噴火で故郷を追われ流れ着いた志津。 いつか豪農になることを夢見、開墾に明け暮れる日々。 貧しくとも、家族に囲まれささやかな安穏を掴みかけておりましたが……。 長年に亘り江戸庶民の暮らしを研究してきた著者が、懸命に生きた農民たちの人生模様を鮮明に描き出す意欲作。
				多摩川の光景がよく知れて、大変良い勉強になりました。
7	画集・大森朔衛美術館	大森 朔衛／著	求龍堂	画家・大森朔衛（1919-2001）は、府中市が市政となる1955年より府中市新町に在住。当時の「新町」は「貫井前」という地名でした。画集P69に掲載されている、パリからのエアメールの宛名住所は、貫井前という記載になっています。 大森朔衛の絵画は、市内では、府中市美術館・芸術の森劇場などに収蔵され、中央図書館のあるルミエール府中　1階ロビーに飾られている『陸』（1966年制作・P62に掲載）が、描かれた当時のアトリエ風景（画集のP84に掲載）も紹介されています。 武蔵野美術大学油彩学科で教鞭をとり、多くの後進の指導にあたりました。 1990年に府中市主催による大規模展覧会が開催され、府中市美術館建設検討委員会では副委員長を務め、地域への貢献を続けていましたが、2001年府中市内の病院で逝去しました。 半世紀近く府中市で、絵を描いた画家の人生と画業を紹介する、まさに美術館のような画集です。
8	記憶の中の誘拐　赤い博物館	大山 誠一郎／著	文藝春秋	「連火」とう短編小説の中で、府中が出てきます。連続放火事件の場所として小柳町、分梅町、栄町がでてくるミステリー小説です。
9	今日の人生　２　世界がどんなに変わっても	益田 ミリ／著	ミシマ社	ゴールデンウィークにちょっと遠出して府中市美術館へ、とありました。観た作品のイラストもあります。P142
10	近代建築の投影　歴史的建造物の光と影	内藤 旭惠／著	多摩大学出版会	京王線の話題や、武蔵国府の話題、府中市郷土の森の話題、府中町役場の話など沢山府中市に関することが掲載されています。 ぜひみなさんお勧めです。
				武蔵国府や家康御殿など詳しく書かれていました。 とても興味深かったです。 ぜひ展示にもオススメです。
				武蔵国府などのお話は大変興味深かったです。
				府中市で代々続く家に生まれ育った著者の本です。 この本の2部のなかで、「武蔵國府に生まれて」と言う章の中で、府中市の変遷や府中市の良さがふんだんに出て来る。
11	蜘蛛の藤兵衛	内藤 久男／著	幻冬舎メディアコンサルティング	蜘蛛の巣編みの達人である独身中年蜘蛛の藤兵衛の下に、ある日伝助と名乗る若蜘蛛が訪ねてきた。弟子入りを志願する伝助は、実は藤兵衛の奥義である「六角亀甲紋」の編み方を盗みに来たスパイだった。 縄張りを移動し生計を立てる二匹は、旅の途中で様々なトラブルに見舞われる。カマキリ、キイロスズメバチ、セアカコケグモと次々と強力な敵達が藤兵衛と伝助の前に立ちふさがるが、二匹は知恵を使い、トラブルを乗り越えていった。旅を続けるにつれ二匹の絆は深まっていった。 別れた妻と娘の情報を手に入れた藤兵衛と、スパイであり弟子である立場の狭間で悩む伝助。旅の末に二匹に待ち受ける結末とは？ふんだんに、府中市、多摩地域が出て来る。

12	くらやみ祭ってナンだ？ 1000年以上つづく例大祭	かぶらぎ みなこ／著	遊泳舎	府中市在住の方にぜひ読んでいただきたい本です。くらやみ祭って何日も続くけど一体何してるの？？一之宮、二之宮って何？？といった疑問にかわいいイラストで答えてくれます。くらやみ祭がもっと身近に感じられること間違いなしです。
13	警視庁53教場	吉川 英梨／著	KADOKAWA	朝日町にある警視庁警察学校が舞台になっている警察小説で、府中警察署の登場人物が活躍します。続編も出ているのでシリーズ全部を読破したくなります。
14	警視庁01教場	吉川 英梨／著	KADOKAWA	刑事時代の捜査中に起きた事故で、心身ともに傷を負った甘粕仁子。警察学校の教官として後進の指導にあたるも、周囲に心を開けずにいるうちに、校内で猟奇事件が発生し…。 舞台は府中市内の警察学校。というわけで当然、朝日町、東府中駅など、おなじみの場所が次々と。 登場人物が食事をするシーンでは、モデルはどのお店？とつい考えてしまうこと必至です。
15	慶長以来新刀辨疑 現代語訳	鎌田 魚妙／著 内藤 久男／訳	里文出版	府中市在住300年の、内藤家11代目が刀についての現代語訳、3部作です。 刀についての、本格的な資料となっています。
16	現代語訳本朝鍛冶考 上巻・下巻	鎌田 魚妙／著 内藤 久男／訳	ミヤオビパブリッシング	
17	古地図と地形図で発見!江戸・東京古道を歩く	荻窪 圭／著	山川出版社	古地図を見ながら史跡を巡り、東京の歴史を学ぶことができます。第3章で府中のルートが紹介されています。
18	鼓動	葉真中 顕／著	光文社	引きこもりや8050問題などの社会問題を背景にした事件の小説です。事件の現場は多摩市ですが、府中市の中河原駅周辺も出てきます。小説の内容は、暗い内容となっていますが、現代の社会問題の解像度が非常に高く、本当にこのような事件が起きてもおかしくないなと思わせます。
19	コミュニティバス図鑑 関東エリア一都六県		スタジオタッククリエイティブ	ちゅうバスが紹介されています。
20	殺し屋、続けてます。	石持 浅海／著	文藝春秋	副業で殺し屋をしているという主人公。そのターゲットの住所に府中が出てきました。 本書は、「殺し屋、やってます。」の続編です。プロフェッショナルな殺し屋の主人公の考え方が、ちょっと私の常識とは外れています。『え？気にするのはそっち？』という、ツッコミたくなる短編集です。そういう考え方もあるんだ～と、元気が出ました。つい前作から引き継き、一気に読んでしまいました。
21	THE FOOL 愚者の魂	EXILE AKIRA／著	毎日新聞出版	EXILEのAKIRAさんですが、東京に出てきて最初に暮らした町が府中だそうです。京王線で乗り過ごしてしまったエピソードなどが書かれています。
22	サマー・オブ・パールズ	斉藤 洋／作	日本標準	中学二年生の男の子の夏休みのできごとです。友人が武蔵野台の駅前にコンビニエンスストアでアルバイトをする事から始まって、調布の塾へ夏季講習に通う場面や帰りがけに府中へ行く場面も出てきます。主人公の家の最寄り駅は東府中である事もわかってきます。中学生の男の子が体験するひと夏のでき事にひきこまれます。
23	自転車主義革命 自転車を活かす新しいライフスタイル	渡辺 千賀恵／監修	東海教育研究所	府中在住の方が出ています。
24	週刊文春 2024年5月2・9日 ゴールデンウイーク特大号		文藝春秋	112P
25	終戦後の府中町と私	黒田 要／著	黒田 要	現在の府中市の元となる歴史を知ることができる貴重な本だと思います。 （物語ではありません。）
26	精神科ER 緊急救命室	備瀬 哲弘／著	マキノ出版	P193 都立府中病院
27	ゼンリン住宅地図東京都府中市		ゼンリン	とてもわかりやすいです。
28	多摩学 経営情報学から見た「多摩圏」	長島 剛／著 野 坂 美穂／著 高 橋 恭寛／著 加 藤 みずき／著 内藤 旭恵／著 樋笠 堯士／著	多摩大学出版会	七章の中で、府中市は宇宙のメッカと言う事について書いている。
				多摩地域全般の内容が掲載されています。 特に、府中市内で宇宙開発が行われていたことなど、新しい話題が盛り沢山です。
				NEC府中事業場について詳しく書かれていました。 また、日本製鋼所の府中工場の写真も懐かしかったです。
				府中市の歴史が詳細に書かれており、多摩地域における府中市の役割などもよくわかります。宇宙と府中の関連性も初めて知りました。 ありがとうございました。
				宇宙開発などのお話は大変興味深かったです。
29	電気じかけの予言者たち TM NETWORK STORY1983 ELECTRIC PROPH	木根 尚登／著	ソニー・マガジンズ	最初にある「府中と国立の境にあるファミリーレストランS」という記述。これはTM NETWORLの3人が打ち合わせでしょっちゅう使っていたすかいらーく国立店（西府町）のこと。ここでグループ名を「TM（多摩）NETWORK」と決めた。
30	東京でひっそりスピリチュアル	桜井 識子／著	幻冬舎	大國魂神社載っています。
31	東京都三多摩原人	久住 昌之／著	朝日新聞出版	全編、三多摩のちょこっと散歩の話です。 第二話 崖線の路を では、野川公園、はけの道、武蔵野公園が登場 第四話 府中街道を、多摩川へ南下す は西国分寺駅から是政橋まで歩きながら、昔の映画や音楽を思い出す、 府中以外でも、三多摩の馴染みある辺りが次々と登場し、久住氏の語り口がたのしいです。

32	東京の懐かしくて新しい暮らし365日　巡りゆく日々の中で見つけたとびきりのお気に入りたち	中川 よしこ／著	自由国民社	東京の魅力的なスポットがたくさん紹介されており全部制覇してもっと東京を深く知りたいと思いました。 7月21日のページには大國魂神社、9月16日のページにはJRA競馬博物館、10月26日のページには都立武蔵野の森公園の掩体壕、2月19日に府中の森公園が紹介されています。
33	日輪の遺産	浅田 次郎／著	講談社	過去と現在の二つの時代の物語が交互に展開し、最後につながったときには感動しました。財宝の隠し場所は架空の市となっていますが、作中に「大国魂神社の欅並木」、「府中の行在所」、「競馬場」、「鳩林荘」など府中の場所が実名で登場します。
				東京競馬場から物語は始まり、南武線や大國魂神社といった具体的な地名が登場します。話も面白いのですが、知っている場所なだけに時代は違えど思い浮かべる情景に現実味が増します。
34	日本の川　たまがわ	村松 昭／さく	偕成社	・表紙 ・p26～30 ・多摩川の上流～下流が絵によって描かれており、とてもわかりやすい。府中についてもふれており見ていてナルホド！と思える絵本です。
35	願いの始まり　神神化身	斜線堂 有紀／著	ドワンゴ	架空のお話なのですが、登場人物の一人が譜中出身となっていて、武蔵国無奏社はおそらく大國魂神社をさしていて、暗闇衆（くらやみしゅう）と呼ばれるグループがあるのですが、くらやみ祭りを連想させます。
36	府中三億円事件を計画・実行したのは私です。	白田／著	ポプラ社	1968年に府中刑務所近くで起きた、三億円事件を題材とした小説です。当時の時代背景や恋愛事情が垣間見れ、楽しんで読めました。
37	府中まちあるきイラストガイド	かぶらぎ みなこ／著	遊泳舎	府中にこんなお店があったんだ！と発見できる本です。温かみのある可愛らしいイラストでわかりやすく描かれています。
38	府中山科物語　平成浮世寿司から	小琴 進／著	近代文芸社	南町にあるコープみらい府中南店。 その向かい側に以前どローカルな「山城寿司」という寿司屋がありました。そのお店を舞台に、京都出身の亭主と風変わりな地元客のやり取りがコミカルに書かれています。今はもうなくなってしまった寿司屋ですが、出てくる料理は（寿司ではなくても笑）すべて美味で、特に穴子の握り、絶品でした～。
39	星を撒いた街　上林暁傑作小説集 「花の精」	上林 暁／著	夏葉社	舞台は西武多摩川線と多摩川。時は戦前。武蔵境駅から是政までの間、ガソリン・カアが走っていた。当時の風景がオットリと描写されています。花の精とは散策がてら摘んだ月見草のこと。
40	まつはきらい	小沢 俊夫／文 二俣 英五郎／絵	府中市教育委員会	「まつのはつらいなあ。」「まつはきらいじゃ。まつはきらいじゃ。」それいらい府中では、”まつをうえてはいけない”というようになりました。
41	真夏の死　自選短編集	三島 由紀夫／著	新潮社	『真夏の死』という短編小説に、主人公と家族が多磨霊園を訪れる場面があります。三島由紀夫のお墓（本名の平岡家）が多磨霊園にあると思うと、感慨深いです。
42	民家日用廣益秘事大全　江戸庶民の生活便利帳	三松館主人／著 内藤 久男／訳	幻冬舎ルネッサンス	江戸時代の生活便利帳の現代語訳です。 この本がタモリさんの目に留まり、「タモリ倶楽部」に出演、本について解説し、お笑い芸人のコカドによる即席コントになった。
43	武蔵野マイウェイ	海野 弘／著	冬青社	多摩地域が舞台で著者は昨年亡くなりましたが、今作以外にも作品を残しています。旧府中市立中央図書館や浅間山なども出てきます。こちらの本を読みながら府中歩きをしてもたのしいかも。
44	燃えよ剣	司馬 遼太郎／著	文藝春秋	土方歳三の爺さん、目が見えないが身体はめっぽう達者。多摩川につかって渡り、大國魂神社のくらやみ祭に出没する様子がいきいきと描かれている。
				小説の冒頭はくらやみ祭りが舞台です。ここで我らが主人公、土方歳三は日々の厳しい剣術の訓練を忘れて多くの若い衆と同じくガールハントに励みます。江戸時代後期、真暗闇の中で自分の袖を引く男の顔が何かの拍子で灯に映し出され、それが当代イチのイケメン（写真でも証明済）土方歳三だったら…なんて楽しい妄想を抱いてしまいますね。現代のくらやみ祭りは地域に住むあらゆる世代の老若男女が祭りの名の下に団結・交流している印象があります。時代が変わってもくらやみ祭りは多くの若い人たちの出会いの場所であって欲しいなぁ…と思います
45	吉田初三郎の鳥瞰図を読む　描かれた近代日本の風景	堀田 典裕／著	河出書房新社	府中駅を含む、京王線の昔の路線図をみることができる。そこから歴史を調べて見ようと思うきっかけになる本
46	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸 潤／著	講談社	府中市郊外にある「青島製作所」という会社の物語です。ドキドキハラハラする内容と「白水銀行府中支店」や「府中第一高校」などたまに府中の地名が出てくる嬉しさが相まって一気に読みました。
47	我らが少女A	高村 薫／著	毎日新聞出版	野川沿いで起こる事件の小説です。野川公園や西武多摩川線の多磨駅（旧駅舎）、その周辺の商店街や街並みが細かに描写されています。お話自体も面白いですが、実際の駅周辺を知っている人は、その忠実さに驚かされます。近くに住んでいる方には是非読んで欲しい作品です。
				私が住んでいるのは市内多摩町2丁目ですが何とその多磨町2丁目十人の他殺体が野川公園内の橋のたもとで発見されるというトンデモ小説です。他にも自宅最寄駅「多磨」の駅員や同駅前に実在する果物店店主などが登場しびっくりしました。
				西部多摩川線、多磨駅、多磨霊園、警察学校などがでてきます。12年前に野川公園で起きた未解決の殺人事件をめぐって、野川公園周辺を舞台に当時関わった人たちの物語です。